

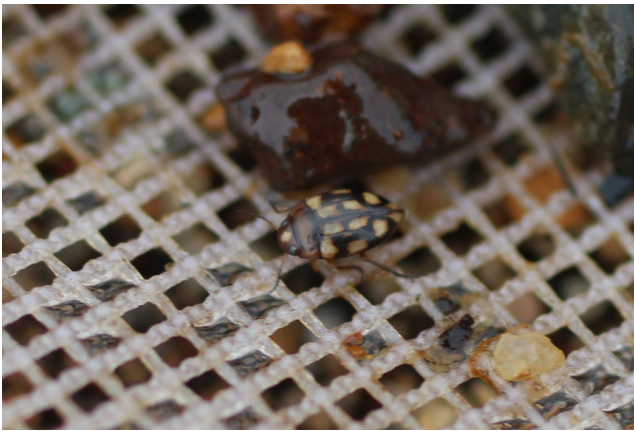
塘研究室現地調査報告

猪苗代湖及びその周辺の池沼・湿地での底生動物調査を9月17日に実施しました。調査地点は、猪苗代湖ではこれまで調査を実施していなかった北岸の志田浜付近、そして6月に2度ほど調査した南岸の鬼沼です。そして、5月に調査を実施した笹山の溜池です。

志田浜付近では湖内からはダビドサナエ属の一種、ホソバトビケラ属の一種の巣、アオヒゲナガトビケラ属の一種の巣が見つかっただけで、他のエリアでは普通に見られるスジエビ、タイワンシジミ、トウヨウモンカゲロウなどはまったく見つかりませんでした。湖内の底質は砂浜から1m弱の範囲は砂礫質で、それよりも沖側は砂混じりの泥質でしたが、この砂礫質と砂泥質の境界の砂礫質側の底質内に夥しい数のゴマダラチビゲンゴロウが生息していました。体長3mmほどの小さなゲンゴロウですが、黒地に黄色い紋が散りばめられた綺麗なゲンゴロウ類です。通常は大きな河川の中～下流域の岸付近に生息する流水性種ですが、猪苗代湖では東岸の浜路付近でも1個体を記録しています。付近の湿地にはギンヤンマ、クロイトトンボ、ハネナシアメンボ、ムモンミズカメムシ、フタバカゲロウ、モノアラガイなどが見られ、サカマキガイ、フロリダマミズヨコエビといった外来種も分布していました。

南岸の鬼沼ではアサザやコウホネが咲き、6月と同様にチビミズムシとルイスツブゲンゴロウが多産しました。また、キベリクロヒメゲンゴロウ、タイコウチの生息も確認できました。意外だったのはコウホネネクイハムシがまだいたことです。成虫の発生期間は意外と長いようです。

笹山の溜池にはメダカ（キタノメダカ？）が生息しています。トンボ類が豊富で、前回はエゾイトトンボ、オツネイトンボ、カラカネトンボの成虫を確認しましたが、今回はキイトトンボ、クロイトトンボ、アオイトトンボ、アジアイトトンボ、モノサシトンボ、ギンヤンマ、ルリボシヤンマ属、ヤマトンボの仲間、マユタテアカネ、ノシメトンボ、アキアカネを確認しました。コガムシやコシマゲンゴロウが多産しますが、今回はマルガタゲンゴロウ、クロゲンゴロウの生息も確認できました。



ゴマダラチビゲンゴロウ



猪苗代湖北岸，志田浜付近



猪苗代湖南岸，鬼沼付近



コウホネネクイハムシ